

県内のモデル経営体での低コスト技術の取組（密播育苗）

平成 28 年産米の業務用向けの販売量を価格帯別にみると、60kg 当たり 14,000 円未満の銘柄が約 7 割となっており全銘柄の平均価格 14,307 円以下の取引が大宗を占めています。

【28年産】

価格帯（60kg当たり、税込み）	割合
16,000円以上	5%
15,000円以上16,000円未満	3%
14,000円以上15,000円未満	22%
13,000円以上14,000円未満	68%
13,000円未満	2%

28年産
全銘柄平均価格
14,307円

70%

注）農林水産省の「米に関するマンスリーレポート」（平成 30 年 3 月号）より

そのため、業務用米の生産を拡大するためには、多収穫はもちろん低コスト技術の導入により生産コストを削減し所得を確保することが必要です。

低コスト・省力技術の取組の一つとして、24 モデル経営体のうち 10 経営体で取り組んだ密播育苗について、柏崎の経営体での取組を紹介します。

密播育苗は、播種密度を高めて使用苗箱数を減らすことにより、庄土や肥料・農薬などの育苗用の資材費の低減及び苗管理や苗箱の運搬などの田植補助の労力を軽減できる低コスト・省力化技術です。

当該経営体では、多収性品種の「ゆきん子舞」を用い、慣行苗のは種量が一箱当たり 130 g（乾粳）のところ、2 倍量の 260 g に増量し密播育苗に取り組みました。苗質は、慣行と比較し乾物重は低くなりましたが、草丈・葉令・第 1 葉鞘長はほぼ同等で良好でした。田植え時には、植え付け本数が多くなり過ぎないことと欠株の発生に注意が必要ですが、田植機に密播キットを装着し田植えした結果、植付本数は 4.0 本/株と慣行 3.7 本同様適正で、欠株率も 1.6%と慣行苗 2.8%同等に少なく問題ありませんでした。使用箱数は 9.4 箱/10a と慣行 13.7 箱より約 3 割少なくなりました。

その後の生育も順調で、6月28日現在の生育は、慣行に比べて、草丈は並(97%)、茎数は多(110%)、葉数の進みは並(-0.3葉)、葉色は濃い(+2.1)状況です。目標収量660kgを目指しています。

表1 苗質調査結果

密播	草丈 (cm)	第1葉鞘長 (cm)	葉令 (葉)	乾物重 (g/100本)	充実度 (mg/cm)
密播苗	12.9	4.1	2.6	1.65	128
慣行苗	15.7	3.9	3.0	2.19	139

注) は種後、15日後調査、密播は乾籾260g/箱、慣行は130g/播き

表2 6月28日現在の「ゆきん子舞」の生育状況

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
密播苗	47	625	10.0	36.0
慣行苗	49	570	10.3	33.9
慣行対比・差	97%	110%	-0.3	+2.1



写真1 田植えの様子



写真2 田植機に装着した密播キット

今後も多収穫。低コスト生産の推進に関する情報をタイムリーに提供しますので、ご覧下さい。

【経営普及課 農業革新支援担当 石山 誠一】